

## 会 議 録

会議の名称		指定管理者選定委員会（第13回）
事務局		企画財政部 企画政策課 企画政策係
開催日時		平成22年7月22日（木）14時00分～17時30分
開催場所		小金井市前原暫定集会施設1階A会議室
出席者	委員	委員長 稲 正樹 委員 副委員長 藤井 泰博 委員 委員 小沼 正博 委員 長谷 匡二 委員 益田あゆみ 委員 欠席委員 0人 専門的知識を有する者 専門委員 鈴木 輝一 委員 間瀬 勝一 委員
	指定管理者候補者応募団体	こがねいしてい共同事業体 5人 共立・山武・コングレ共同事業体 5人 小金井アートウインド運営企業体 5人
	担当課	文化施設開設担当課長 中谷 行男 コミュニティ文化課主査 中島 憲彦 コミュニティ文化課主事 岡崎 章尚
	事務局	企画政策課長 天野 建司 企画政策課長補佐兼企画政策係長 井上 明人 企画政策課企画政策係主任 堤 直規
傍聴の可否		可 一部不可 <u>不可</u>
会議次第		1 開 会 2 議 題 (1) 平成22年度諮問第3号 小金井市民交流センターの指定管理者候補者の選定について (2) その他 3 閉 会
会議結果		別紙会議録のとおり

## 第13回小金井市指定管理者選定委員会

日 時 平成22年7月22日(木) 14時00分～17時30分  
場 所 小金井市前原暫定集会施設1階A会議室  
出席委員 7人  
委員長 稲 正 樹 委員  
副委員長 藤 井 泰 博 委員  
小 沼 正 博 委員 長 谷 匡 二 委員  
益 田 あゆみ 委員  
専門委員 鈴 木 輝 一 委員 間 瀬 勝 一 委員  
欠席委員 0人

---

### 指定管理者候補者応募団体

こがねいしてい共同事業体 5人  
共立・山武・コングレ共同事業体 5人  
小金井アートウインド運営企業体 5人

---

### 担当課職員

文化施設開設担当課長 中 谷 行 男  
コミュニティ文化課主査 中 島 憲 彦  
コミュニティ文化課主事 岡 崎 章 尚

---

### 事務局職員

企画政策課長 天 野 建 司  
企画政策課政策担当課長補佐兼企画政策係長 井 上 明 人  
企画政策課主査 堤 直 規

---

(14時00分開会)

◎委員長 それでは、時間になりましたので、ただいまから第13回的小金井市指定管理者選定委員会を開催いたします。

本日は、前回の審査に続き第2次審査を行います。第1次審査に合格しました3者をお呼びしておりますので、順序に従って審査を行っていきたいと思います。

審査方法でございますけれども、各者15分の持ち時間ということで、既に提出していただいております申請書等、審査基準の各項目につきまして補足的な説明を行っていただき、その後、20分程度で各委員からの質疑等を行い、最後に10分程度で評点を行っていただきます。

そして、今、申し上げましたように各委員から評点いただいて、合計点の高い順から順に第1位、第2位、第3位と順位付けを行いまして、小金井市民交流センターの指定管理者候補者といたします。なお、候補者として決定した後、第1位をはじめ順位の高い者から辞退等があった場合には、次点の者が繰り上がるものといたします。

それでは、ただいまから小金井市民交流センター指定管理者候補者の選定の第2次審査を行います。

暫時休憩いたします。

(休憩・「こがねいしてい共同事業体」入室)

◎委員長 それでは、委員会を再開いたします。

こんにちは。本日は、お忙しいところ小金井市指定管理者選定委員会にご出席をいただきまして、ありがとうございます。

それでは、ただいまからこがねいしてい共同事業体さんについての第2次審査を始めます。

初めに、提出していただいております申請書等に基づきまして、15分程度と時間が短くて恐縮ではございますが、簡潔にご説明をお願いいたします。その後、私ども各委員のほうからの質疑応答を20分程度行います。

ここで、私、委員長のほうから、一言申し上げたいと思います。委員会における発言内容につきましては、議事録といたしまして全文記録によって作成し、公開されますので、この点、ご了承おきますようお願いいたします。

それでは、説明をどうぞよろしくをお願いいたします。

◎こがねいしてい共同事業体 座って失礼させていただきます。

本日は、プレゼンテーションの機会をちょうだいいたしまして、誠にありがとうございます。小金井市にそれぞれ縁を持ちます野村ビルマネジメント株式会社並びにサントリーパブリシティサービス株式会社、この2社が力を合わせて小金井市民交流センターの管理運営を、ぜひとも地域、小金井市に貢献したいとの思いを持って取り組んでおります。

プレゼンテーションは、両社の適任者より行いたいと思います。どうぞ、よろしくをお願いいたします。

◎こがねいしてい共同事業体 では、早速始めさせていただきます。

野村不動産グループは、市内中町に独身寮を長く持っておりました。グループの現役員をはじめ多くの幹部社員がここで独身時代を過ごしております。野村不動産グループにとりまして、小金井市は格別の思いがございます。

このたび、市民の悲願であった武蔵小金井駅高架化に伴い、南口が再開発され、以前の公会堂を大きく発展させた市民交流センターが誕生いたします。駅南北の分断されていた行き来、

多くの芸術を愛する市民が住まいながら満足に行えなかった活動、これらを解消する拠点が出来たと自分のことのように喜んでおります。

一方、サントリーパブリシティサービスは、サントリーホールをはじめ数々の文化施設の運営に携わり、特にクラシック分野において国内最高水準の企画実行力を持っていると自他ともに認めるところです。

また、同社は日本のレセプション生みの親とも言われますが、小金井市内において市民交流センターの開設に備え、3年にわたり市民ボランティアのレセプション養成に取り組んでまいりました。

このような経緯から、野村ビルマネジメントが代表として全体の責任を持ち、事業運営をサントリーパブリシティサービスが行う当事業体は、単なる施設の運営管理ではなく、熱意を持って市と市民と施設を愛して、小金井市の文化・芸術の振興、市民交流に大いに貢献できるものと確信いたしております。

しかし、再開発によって誕生する施設には、施設のミッション以外にも各種の課題が生じることを過去の経験から存じております。開発のマンションは野村不動産グループが分譲・管理しております。連携による合理化、安定した施設管理により、サントリーパブリシティサービスが事業に専念できる環境を整え、共同事業体として一体性を持って進めていく所存でございます。

続きまして、ご指定の項目について、サントリーパブリシティサービスの略称「SPS」よりご説明させていただきます。

◎こがねいしてい共同事業体 よろしく願いたします。

では初めに、適切な管理運営を確保するために施設の設置目的ののっとして私どもが立てました基本方針からご説明を申し上げます。

お手元の提案書の中に、提案部分の冒頭に、我々の提案の全容を方針からおわかりいただけますように、ちょっと横に開くページでツリー図というものを頭のところに添付をさせていただいております。それをごらんいただきますと、よりわかりやすいかと存じます。

私どもは、交流センターが小金井市の市民活動、まちづくりを支える拠点となることを目指しております。そのための役割として、一流の芸術・文化との出会いの場となること、そのための世代間や地域コミュニティの交流の場となること。そして、市民みずからの自主性が育まれる場となること。以上の3つを、大きな行動方針として掲げております。

そして、この方針のもとに活動する内容を、右のほうにツリー図で展開する形でご案内をしておりますので、これがそれぞれの様式のページにつながるという構造でございます。

小金井市民交流センターでは、私どもでしか成し得ない活動を展開するとともに、公共の施設を預かる立場として、市民のための公平性につきましても、施設利用時の抽選や迅速な情報発信を行うことで、適切な管理運営を確保していく考えでおります。

私どもの活動内容を正しくご理解いただけるよう、積極的な情報公開を行う一方、開示請求

にも的確に対応をいたします。

また、個人情報の取り扱いについても、全スタッフへの定期的な教育研修の実施や個人情報管理台帳の作成と管理、パソコンやネットワークのセキュリティ管理などにも細心の注意を払います。

以上のような方針によりまして、適切な管理運営が確保できるものと考えております。

続きまして、事業者の現状と実績について申し上げます。私どもは、それぞれ野村不動産ホールディングス、サントリーホールディングスのグループ会社でございます。経営状況も安定しているとともに、指定管理業務での実績も豊富でございます。野村ビルマネジメントは、テナントビルや大学などの教育施設など、多岐にわたる施設の維持管理業務で実績があり、指定管理業務でも高い評価を得ております。

また、SPSは、サントリーホールオープン以来のご案内業務の実績を生かしまして、全国14の文化施設の指定管理業務を行っております。交流センターの運営業務においても、これらの実績による知見を生かすことができると考えております。

続いては、芸術・文化公演事業についてのご説明を申し上げます。公演ラインナップは、先ほど申し上げました方針に基づいた企画をご提案しております。

海外の一流ピアニストのコンサートから市民参加者とともに実施するゴスペルクリスマスコンサート、肩の凝らないポップスの公演や親子で楽しめるコンサートまで、多彩なジャンルの企画をご用意しております。これは、音楽ファンのみでなく幅広い層の市民にご来場いただきたいとの思いから考えたものです。

さまざまな企画で、市民参加型やアーティストとの競演や交流も盛り込んでおりますが、これはSPSの事業企画の大きな特徴でもございます。

また、市民がさまざまな場面で芸術・文化活動にかかわることのできる創造・創作事業を展開いたします。

様式の番号を申し上げたほうがよろしいでしょうか。恐れ入ります、様式3をご覧ください。

自主事業の、今、ご紹介したような例を挙げてございます。様式3が年間の事業企画のご提案内容になっております。

また、さまざまな場面で文化・芸術活動に市民が加わっていただけますよう、創造・創作事業を展開いたします。これは様式6に記載してございます。

芸術・文化への興味の度合いは人によって違いますし、市民の方々のライフスタイルもさまざまです。ですので、つくり手だったり、演じ手だったり、あるいは聞き手だったり、市民それぞれの興味や都合に応じた形で参加していただけるような企画をご用意いたします。

また、公演の開催時にはレセプションを配置いたします。SPSでは、長年にわたってホール案内業務を行ってまいりましたが、スタッフには当社独自のきめ細かい教育研修を行い、交流センターにふさわしいサービスを確立いたします。

市民交流センターにおいては、日ごろ受付業務を行うコンシェルジュがコンサート時のレセ

プショニストを兼務いたします。これは、日ごろ受付でお客様と接しているスタッフこそがお客様のご要望を最も的確にくみ取ることができると考えたからです。また、3年前より私どもが研修のお手伝いをしておりますボランティア養成講座の皆様も、せっかくですのでぜひこういう機会に、お仕事としてご協力をいただける関係をこれからもつくっていきたいと考えております。

また、開館にかかわる内覧会、開館記念式典、オープニングイベントなども、オリジナリティあふれる構成を考えました。様式の15、16にそちらを記載してございます。

具体的には、内覧会では、地元の学生オーケストラや文化団体の方々に実際に演奏をしていただき、ホールの音響のすばらしさを体感していただきます。また、開館記念式典でも、地元で活躍される方々にまずはご参加をいただき、にぎやかなお祝いのムードを演出いたします。

このように、随所に市民参加の場を設けておりますけれども、これには、この交流センターをぜひ身近に感じていただきたいという思いからでございます。

さらに、交流センター自身を身近に感じていただくために、ホールを飛び出してさまざまなイベントも行います。マルチパーパススペースやフェスティバルコートなどでのミニコンサートによって、積極的にセンターの存在をアピールし、ご利用あるいはご来場のきっかけを広く市民の方につくってまいります。

このような活動を広くアピールするための広報活動も大変大事ですので、定期広報誌の発行、それから地元のメディアを中心とした情報発信で、私たち自身も地域との連携を強化しながら広報活動をしていきたいと思っております。

また、ホームページも交流センターの魅力を十分に伝える大変大切なツールでございますので、これも充実させてまいります。

続いては、サービスの向上についてご説明いたします。私どもの大きな特徴は、様式8でご提案しましたコンシェルジュという役割にございます。これは、単に館内の受付をする人間ではなく、そのポジションにおりますけれども、地域のあらゆる情報にお答えできるような人材を育成してまいります。これによって、館内インフォメーションという役割を超えて多彩な交流の場づくりに少しでも貢献できるのではないかと考えております。また、まだご利用になっていないお客様に対しても、施設の上手な使い方やいろいろなアドバイスをここで行ってまいりますので、利用促進にも貢献できると考えています。

また、SPSは全国のいろいろな施設でこうした貸館の事業を行っておりますので、このノウハウを活用して、より小金井の皆様に使やすく、たくさん使っていただけるような促進を図ってまいります。

また、利用者のご要望を的確にくみ取って運営に反映させることも重要ですので、まずは日ごろの業務の中でお客様のご意見をしっかり受けとめられるよう、受付スタッフのみならず、舞台や清掃スタッフも含めた研修をしっかりと行います。

定期的な利用者満足度調査によるPDCAサイクルによって、よりよいサービスを提供する

ための業務改善を常に行ってまいります。

続いて、効率的な運営の項目についてご説明を申し上げます。公演事業については、武蔵野周辺の他の文化施設でのチケット料金設定を参考にして検討をいたしました。多くの市民の方にご来場いただけるように配慮したリーズナブルな料金設定を行っております。

また、収支バランスも実現性の高い計画であると考えております。貸館については、様式7にご説明がございますが、こちら、市が想定された料金設定は周辺施設等を照らし合わせましても非常に利用しやすいリーズナブルなものであると判断いたしました。

全体の収支は、指定管理者としてこれまで蓄積してきたノウハウによって効率化を図りながらも、質の高い活動が展開できるものになっているかと考えております。

最後に、安全で安定的な施設運営の継続的提供についてご説明いたします。施設の維持管理では、常に安全・安心で快適な状態を確保し、できるだけ良好な状態を保つことが重要な役割であると認識をしております。特に、新しい施設であるだけに、スタート時から予防保全を前提とした計画的な施設管理を実現し、コスト縮減とともに、交流センターの資産価値を維持することが求められます。詳しくは、様式11にそのご説明がございます。

これを実現するため、野村ビルマネジメントが周辺施設と一体となった管理体制を構築できるということは大きなメリットがあると考えております。

また、万全の体制でスタートを切るために、備品のデータベース化や各種の危機管理マニュアルを迅速に作成してまいります。これは、野村ビルマネジメント、SPS両社がそれぞれの専門領域について作成をいたしますけれども、実際の現場では、全スタッフが1つのチームとなって、会社の垣根は関係ございませんので、一丸となって安全意識とホスピタリティを共有して業務に当たってまいります。

また、施設全体を統括するためのセンターの顔となる役割の館長ですが、私どもは、あえて著名なアーティストを芸術監督等の名誉職として招聘するというのではなく、あくまでも主役は市民の皆様になりますので、市民の皆様の活動をきちんと支えられる運営チームとして、このセンターを運営してまいりたいと思っております。ですので、知名度に頼るということではなく、実際に実務の経験があり、マネジメント能力のある人物を館長として据えたいと、そういう考えでございます。

この館長のもと、企画、運営、維持管理、舞台という各部門に経験を積んだ人材を責任者として配置いたします。野村ビルマネジメントとSPSの各責任者は同じ事務所で業務に当たりますので、日ごろの意思疎通が円滑になり危機管理も適切に行えると考えております。

また、両社とも環境マネジメントISO14001を既に取得しておりますので、環境に配慮した経営が現場でも徹底できるものと考えております。

提案のポイントにつきましてのご説明は以上でございます。ちょっと早口で申しわけありませんでした。

◎委員長 ご説明、ありがとうございました。それでは、また質疑の中で順次お答えいただき

たいと思います。

それでは、これから質疑を行っていきたいと思います。よろしくお願いたします。

初めに、私、委員長のほうからお伺いをいたしまして、その後に各委員のほうから質問を行います。

最初でありますけれども、まず応募に当たりまして、役員の中に市長、副市長、教育長、議員等の本人または配偶者及び第2親等以内の親族がない旨の誓約書を提出していただいておりますけれども、このことに間違いはございませんでしょうか。

◎こがねいしてい共同事業体 間違いございません。

◎委員長 ありがとうございます。それでは、最初に私のほうから3点ほどお伺い申し上げたいと思いますので、口火を切らせていただきます。

第1点目は、様式3でございます。今、ご説明がもう既にあつたわけでありまして、今回のホールのこれを拝見しますと、一連の番号が書かれておりまして、非常にレベルの高い、ハイレベルのコンサートというふうな、そういう印象を受けるわけでありまして、この芸術・文化公演事業が、しかしながら、別の言い方をしますと音楽コンサートに偏っているという感じもいたしますけれども、それも含めまして、施設を十分活用するお考えについてお聞かせいただきたいと思ひます。これが第1点でございます。

2点目は、様式の23でございます。これは、今の補足の説明の中でも、リーズナブルな料金設定ということでございましたけれども、拝見いたしますと、この利用料金に対する考え方につきましては、ここに確かに記載されているとおりでございますけれども、ただしこの利用の上限額につきまして、パブリックコメント以前の条例案と同一でございます。しかしながらパブリックコメントの後には、小金井市のほうでは、市外料金につきまして、市内料金と比べますと1.5倍に変更しているという経緯がございます。

この市内と市外の料金区分をこのように変えておりますけれども、今回の提案では、その市のような考え方が反映されていないようでありまして、その理由についてお聞かせいただきたいと思ひます。

関連いたしまして、料金設定を安くするということがベースになっているようでありまして、もしそのような考えですと、逆に市外料金ではなくて市内料金のほうを安くするという考え方は、あつたのかなかつたのか、その点についてもあわせてお伺いをしたいと思ひます。

最後の第3点目は、同じ様式23でございますけれども、この市のほうでご案内した際の提案の作成要項の中では、区分ごとの利用料金に対する考え方につきましては、具体的に記載してくださいというふうな書かれています。しかしながら、いただいております様式23の利用区分の、一応、ここの部分の真ん中の部分ですね。このように書かれておりまして、例えば他市の場合、1日を幾つかに区切っているような形で利用料金を設定している考え方もあるわけですが、このあたりにつきまして理由をお聞かせいただきたいと思ひます。



ちょっと早口でございましたが、よろしくお願いたします。

◎こがねいしてい共同事業体 様式3にございます平成23年度からの公演事業につきましては、音楽を中心とした多目的ホールという文化ホールの位置づけをまず考えまして、まず市民の方々に、これまで「こがねいしてい音楽祭」というような市民イベントもございましたので、それを継続しながら、音楽という切り口から、まずこのホールを宣伝していきたいということから、まず音楽で、この文化ホールについては宣伝していきたいなというところから、選定させていただきました。

ただ、多目的ホールということもあり、これから建てられるホールということもございましたので、どのぐらいの、機構的にもお芝居、またパフォーミングアーツに向いているホールなのかというのがちょっとわからなかった部分もございました。そこで、具体的な提案というよりは、やはりまずは、強みであるところの音楽を押し出した形で企画をさせていただいた次第です。

その企画の一番の骨子は、この小金井の地に世界の一流のアーティストをとにかく呼ぼうということで、都内中心、また関東近県のかなり数の多い公立文化施設の中でも小金井市の市民交流センターについては、特別な位置づけがあるということ、まず内外に広報したいというところが1つの大きな企画の骨子でございます。

企画につきまして、簡単でございますけれども触れさせていただきました。

ご質問の2問目にごございました様式23の利用の上限金額につきまして。これも、これまで小金井市の中で、市民の方々を含めた選定委員の方々のお声として、「開設準備計画書」であるとか、これまでの「管理運営実行計画」であるとかという、もろもろの書類を拝見させていただきまして、ここまで数字を持ってこられた経緯を配しました。ただ、その上でパブリックコメントの数字につきましては、一応、上限という形をもちまして、その後、市内料金、市外料金の差につきましても、選定いただいた後ほど、市の方々と細かい話し合いをできればいいなというふうに考えておりました。

もちろん、市民のためのホールですので、市内に対しての有効利用を高めるための料金設定であるべきだと考えておりますので、その辺の金額の幅は持っていたいというふうに思っております。

質問の3番目にごございました。様式23の真ん中辺の利用区分につきましてですけれども、これも午前、午後、夜間という3区分を組ませていただく予定ではおります。ただ、これにつきましても、先ほどの上限金額の中でどのような金額設定にするのがよいのかというのは、まさにこれから開館するホールでございますので、その中で具体的に、この区分帯で幾らというような設定を市の方々と協議させていただければと思っております。具体的な区分による料金設定というのは、今、ここでは控えさせていただきました。

◎委員長 ありがとうございます。それでは、どうぞ委員の皆さんからご質問を。

◎委員 じゃあ、私のほうから。■■■■です。2点ばかりお聞きしたいのですが、1つは、5

年間の事業計画をつくられています。その利用客の数字を見ますと、最後の年に2億8,000万に対して100万のプラスということで、どうも私どもから見ると、毎年の改善努力がこの数字に何かあらわれているのかなと疑問が1つあって、その辺、どういうふうに考えるのかというのが1点です。

それから2点目は、設備のほうで、ここにLCC方式を導入するよというふうに書いてあります様式11ですが、LCCという方式は、今回の設備・建物を含めて、設備や何かのいわゆる設計の費用、それプラス、実際にそれを購入して設置する設置費用、それからさらに、それが設置されたやつを実際に運転する運転費用。それから、保全にかかる保全費用ですね。それから一番最後に、これはもう要らなくなったよというので廃棄する廃棄処分の費用。こういったものを全部トータルして、設備の一生涯のことを考えていく思想なんですね。ですから、ここでそういうことを考えたいという意味はわかるんですけども、現実には、今回の事業の場合には、最初の設計段階、それから設置費用、最後の廃棄処分ですね、建物を壊すですね。そういった費用というのは、あまり考えなくてもいいのではないかなと。

だとすると、いわゆる一般的に言うミニマムコスト方式ですね。そういった方式をとられて、ちょうど中間の運転と実際の保守にかかわる費用、これをミニマムに、最低に持っていくという方法を考えられたほうがいいのではないかというふうに思いました。以上です。

◎委員長 よろしく願いいたします。

◎こがねいしてい共同事業体 野村ビルマネジメントのほうからご説明させていただきます。

まず、1点目の年間の毎年の収支及び、その改善の努力についてでございますが、今回のオープニングにおきまして一番苦しい予算となりましたのが、平成23年度、いわゆるオープニングイベントの年でございます。この年を乗り切るために、私ども、22年度にいわゆる管理用の消耗品、それから事務用の消耗品、その他、各種消耗品、舞台も含めてですが、22年度にできるだけ購入をして、そして23年度にイベントを何とか乗り切るということで考えておりました。

本来は、いろいろと行いたかった。例えば、制服を調達したりということもございましたが、そういったものを24年度以降に何とかそろえていく形にできないかということで、現在、そのやりくりをしているところでございまして、数字の上では確かに努力という形で見えにくいかもしれませんが、毎年、行うものの中身をきちんと精査して行っていきたいと、かように考えております。

それから、次のLCCの部分でございます。先生ご指摘のとおりでございまして、私ども、このLCCをどう扱うかにつきましては、非常に専門的なものがございますので、やっておりますが、この様式11のところを書いております、右側の下にございます省エネ、効率的管理、計画的修繕、この部分が、主に私どもが担当する今回の施設における大きな役割であるかと考えております。もちろん、設置されましたものについては、まだどうこうということでは、ございませんけれども、その後、修繕という点において、特にスタート時において、私ども、

特に大切だと。このときにしくじりますと、10年後、20年後に大きな費用がかかってくるという具合に考えまして、その考え方に基づいてスタッフを決めたいと考えております。以上でございます。

◎委員長 よろしゅうございますか。どうぞ。

◎委員 委員の■■■■です。先ほどの長谷委員の質問の追加でございます。収支のところでは記載されているようにオープニング、それから初年度、いろいろご苦労されているということは伺い知ることができるのですが、24、25、26年度とほとんど数値が変わりません。ここにおいて、人件費も変わらず、維持管理費も変わらずというようなことでやられるということにおいて、冒頭で、努力してやっていきますというお話ですが、努力のところは現実に見えてこない状況になっているのですけれども、そういうところはどのように考えておられるんですか。そこをお聞きしたいと思います。

◎こがねいしてい共同事業体 野村ビルマネジメントからご説明させていただきます。

今、ご指摘がございました中で、施設管理に関しましての部分が、経費の節減に結びついていないのではないかというご指摘かと思えますけれども、これに関しましては、この経費の節減に関して、スタートを切りました後、人件費という部分に関しては、設備管理、その他施設管理に関しましての削減は難しいかと思えますけれども、その他のエネルギーコスト、それから施設の整備といったところの、まだスタートを切りましたときにはそろわない備品その他等あるかと思えます。この点を何とかそろえていって、施設をできるだけいい形に持っていく。金額を安くするというのではなくて、できるだけ施設の充実に、その点を振り向けていきたいと考えておりますし、これは私どもが今までに行っております中野の文化施設だとか、浅草公会堂だとかで実際に実践をしております、こういうことに務めております。さらに、利用率を上げていくというような点を重視しております。

そのほか、利用率の点につきましては、SPSさんのほうからもう一度ご説明したいと思います。

◎こがねいしてい共同事業体 経費の節減という中では、やはり私ども、5年間で一番の経費がかかる部分というのは23年のオープニングの年。この年にいかに広報して多くの方に、このホールが出来たよということを知らしめることが一番かというふうに認識しております。

なので、自主事業経費につきましても、23年度を一番厚めに出していただいております。我々、営業活動をしていく中で、収入を上げるという方向に、今、1つ考え方を持っております。それは、自主事業のコンサートのチケットで収入を上げる。それと、利用の頻度を上げることによって、利用料金の収入も上げていくと。あと助成金及び、ここにも書いてございますが協賛金、外部資金の導入といったものも積極的に進めることで、経費の削減はもとより収入を上げる努力というものを、できれば24年度以降にぜひやっていきたいことだというふうに認識しております。

自主事業につきましても、キャパシティが非常に決まっておりますので、これはアーティス

ト並びにその関係者の方々と協議を重ねて、交渉して、少しでも低廉な料金で市民の方々にもご提供できるように、そういうコスト努力については、当然ですけれども、23年度以降、行っていきたいなと思っております。以上でございます。

◎稲委員長 はい、どうぞ。

◎委員 委員の■■■■です。共同事業体ということで名乗りを上げられた。そこら辺が、実際に当たって円滑に責任体制を持ってやっていかれるのかどうか。単に名前を合わせたから強くなるかどうか、そこら辺はよくわからないもので、心構えのほどを伺いたいのが第1点。

それから、有名な上野の東京芸術劇場でしたか、正確な名前は覚えませんが、非常に成功した例がありますが、これも、やっぱり芸術的な文化施設の管理運営というのは、非常に心構えを要すると思うんですね。そこら辺の決心というか、あれはいかがなものか。そういう点も伺いたい。とりあえず、この2点をお願いします。

◎委員長 よろしくをお願いします。

◎こがねいしてい共同事業体 野村ビルマネジメントのほうからご回答させていただきたいと思えます。

まず、共同事業体として、実際、取り組んで支障はないのかということだと思えますけれども、実は、私ども、野村ビルマネジメントとサントリーパブリシティサービスは、指定管理者制度が始まったころからずっと情報交換を行ってまいりまして、お互いにお互いを認めながら進めてまいりました。ただ、なかなか機会に恵まれなかったというのが現状でございます。

今回、小金井市に対しまして私どもがいろいろな事前のかかわりを持つ中で、お互いにここで事業あるいは行動を行っているということを確認いたしまして、それで今回のパートナーということになりました。きょう初めてここで、あるいは今回の応募で初めて顔をあわせたということでは全くございませんので、この点はご安心いただいて結構かと思えます。また、両社ともに10施設を超えます指定管理もやっておりますので、ご安心いただきたいと思います。

さらに、芸術活動についていかがな取り組みかという点につきましては、サントリーパブリシティのほうから回答させていただきます。

◎こがねいしてい共同事業体 市民交流センターの実質的な運営の部分の部分を私どもが担わせていただきますので、SPSより心構えと、それから気合いをお話し申し上げたいと思えます。

私どもは、サントリーの100%グループ会社でございまして、親会社が自前でコンサートホールや美術館を持っているという、ちょっと会社としてはもともと珍しいところで仕事をしてきたというのが、会社のももとの出自の中にございます。

そういった意味で、民間企業でありながら文化・芸術にかかわるところの仕事を長年やってきております。サントリーホールは、できた当初から、表周りの運営サービスを一手に開発もしてまいりましたので、それを生かす形で、現在の指定管理という形で、地方自治体のさまざまな文化施設のお手伝いを既に行っております。

特に、民間のサントリーホールのようなところと、それから公共の文化施設は同じではない

ということも、この5年の間によく学習をいたしました。やはり、こちらがやりたいことをご提供すればいい訳ではありませんし、人さえ来ればそれでいいというものでも全くございません。私どもの他の施設も既にそうなのですが、5年をかけまして、時間はかかるんですけども、地域の皆様とよくお話をし、その地域のニーズとか、皆様のご要望というものをよくとらえた上で、そこに合った企画、いろいろなものをご提供していく。そうすると、活動全体が館の中で閉じずに、館はあくまでも機能を提供するような形で地域の中に存在していき、地域の皆様と一緒に文化の振興に貢献できていくんだなということを、公共施設を手がけて非常に実感をしております。そのことが、実は現場で働くスタッフの大きなモチベーションにもなっておりまして、私どもといたしましては、野村ビルマネジメントという、やはり実績があって、しかも専門のトップ企業とパートナーになれるということで、非常に自社でできない部分については大きな後ろ楯と言ったらおかしいんですけども、支援を得て、心置きなくこれまでの知見を生かして、小金井市でなければできない、市民交流センターでなければできない活動を、ぜひとも市民の皆様と一緒に作り上げてまいりたいと、このように考えております。以上でございます。

◎委員長 ぜひご質問を出していただければと思います。

◎専門委員 委員の■■■■でございます。2点ほど伺わせてください。小金井コンシェルジュという制度をご提案になっていらっしゃるんですね。1階の案内コーナーを使っただけの部分なのでしようけれども、そのアドバイスは、先ほどのお話だと、施設利用のアドバイス、または市内の情報提供まで広げたいということでしたけれども、どの辺までの広がり方というんでしょうか、案内の中身。それについて、お考えがあれば伺いたい。

それからもう1点は、この事業の企画、特にチケットの料金設定の問題です。小金井市は、今までほとんど入場無料というものばかりやっておりましたので、そこで5,000円、6,000円を市民が払うかという、大変危機感を持っております。その辺の料金設定の問題。慣れるまでというのはあると思うのですが、慣れてくるまでの間に、当然、事業ですから赤字がどんどん積み重なります。その赤字はどちらが負担をなさるのか。行政のほうからは、これは補正ということではあり得ないですからね。赤字負担は、どちらがどういう形で責任を持たれるのか、この2点をお伺いいたします。

◎こがねいしてい共同事業体 2点ともSPSのほうからお答え申し上げます。

まず、1点目のコンシェルジュにつきましてですが、これは、実は別の施設でやっている実績がございまして、1つは千代田図書館というところで、これは日本で初めてコンシェルジュを置いた図書館ですが、最初、館内の本の場所の案内だけをしていたのですが、滞在時間が皆さん長いので、お昼に出かけられるときにそば屋のこととか喫茶店のこととかいっぱい聞かれるものですから、結局、自分たちで神保町に行きまして、神田神保町が近いので、お店を開拓して手づくりでマップをつくりまして、それを持って、実際に行ったことがあるお店として紹介をしております。それから、まちに飛び出して参加者を募りまして、神保町の古

書店めぐりというガイドツアーなんかも自分たちで企画してやっております。

このノウハウを生かして、実は、大阪市の中央公会堂のほうでは、周辺展開というか、そういう形で、公会堂を中心にした中之島のエリアガイド、タウンツアーというものも昨年には実現が出来ております。

そういうモチベーションの高いスタッフと、それから情報共有の仕組みですね。それとイベントをするときのポイントなどのノウハウが、今、社内で蓄積されておりますので、小金井でコンシェルジュになってくださった皆さんも、なるべくならご自分の力で外に出て、まちのいいところを発見して、それを我々がガイドツアーにするならこういうふうにしたほうがいいのかというアドバイスを、形につくり上げていくことができると、かなりの広がりが出てくるのではないかなというふうには期待をしています。1点目については、以上でございます。

2点目の料金設定の価格設定のポイントにつきましては、間瀬委員がまさに、最も言われているとおりにあります。価格設定こそ、お客様にとっては一番大きなところであるとは思いますが。

ただ、私ども、いろいろな公立文化施設の事業をやっていた中で、いいものをより安くというのは、確かに行政のほうから市民に対しての市民サービスの一環であるという認識は1つあると思うんですが、と同時に、やはりここは東京都、1つの市であるということからすると、クラシックのみにかかわらず、お芝居にしても、パフォーミングアーツにしても、東京都内の公演というものが当然ございます。また、この小金井市を取り巻く環境、また中央線沿線の各駅ごとにある各市町村のホールといったところの自主事業との競合性といったものも加味しないとイケないと思っております。

私どもは、この公演事業に関しましては、的確な価格設定、この「的確な」というのは、周りの市況ともあわせて、また東京都中心の公演ともあわせた上で、的確な料金設定をするべきであると。その上で、やはりマーケットに合わせた料金設定というものの兼ね合いも考えるべきであろうと。その意味において、5,000円というのは非常にアベレージかなというのは正直思っております。

私ども、幾つかの公演につきましては、6,000円であるとか7,000円というのもつけさせていただいておりますが、あくまでもSS（スーパー・スペシャル）という形をもちまして、プログラム冊子であるとか、何がしかのインセンティブをお客様にそこでは提供するようなサービスといったものを考えたいなと思っております。単なるチケットを売ればよいということでもありませんし、マーケットをずっと維持していく、また収益を上げるためには、この価格設定こそが、我々としてはしっかり考えて守らなければいけないところであるというふうには認識しております。簡単ですけど、以上でございます。

◎委員長 ありがとうございます。

◎専門委員 ■■■■です。組み合わせで、共同事業体でということ載っているのですが、舞台管理について「委託」と書かれているんですが、具体的にどういったところに委託なさるか予

定はございますか。

◎こがねいしてい共同事業体 では、野村ビルマネジメントのほうからお答えさせていただきます。

舞台につきましては、他の文化施設のように、私どもが担当しております。こういう施設を管理するものが、安全管理ということも含めて、また舞台の芸術性といったものも含めまして、今までそういった、中野のホール、その他で実際にそういうものを担当してまいりました者が私どもにおりますので、この者を配属するとともに、舞台につきましては委託という形で、現在、7名のスタッフでこの舞台を運営していく、いわゆるオペレーションをしていくということをご想定しておりますけれども、これにつきましては、しっかりとした管理体制で今までも出来ておりますので、これからもやってまいります。一番の問題点は、安全にできるようにという点を、まず1つ。

◎専門委員 質問は、「委託」というのは、委託先はお決めになっているのですかという質問ですが。

◎こがねいしてい共同事業体 失礼いたしました。委託先につきましては、もう既に候補がございしますが、まだ私どもで実際に指定管理されたわけではございませんので、今、ここでは公表する訳にはまいりませんが、実際にお話を具体的に、これについては進めております。

◎委員長 もう少しお聞きしたい点もありますが、この辺で打ち切らせていただきます。

以上で、こがねいしてい共同事業体さんについての第2次審査を終了させていただきます。審査結果につきましては、後日、担当課より文書にて通知することになります。本日は、大変ありがとうございました。

それでは、しばらく休憩いたします。

(「こがねいしてい共同事業体」退室・休憩)

(休憩終了・「共立・山武・コングレ共同事業体」入室)

◎委員長 それでは、委員会を再開いたします。

こんにちは。本日は、お忙しいところ、小金井市指定管理者選定委員会にご出席をいただき、大変ありがとうございます。

ただいまから、共立・山武・コングレ共同事業体さんについての第2次審査を始めます。

初めに、提出していただいております申請書等に基づきまして、15分程度と、時間が短くて恐縮ではございますけれども、簡潔にご説明をお願いいたします。その後に、各委員からの質疑応答を20分程度行います。

ここで、委員長から一言申し上げます。

委員会における発言内容につきましては、議事録といたしまして全文記録により作成し、公表されますので、この点、ご了承おきくださいますようお願いいたします。

それでは、説明をどうぞよろしくをお願いいたします。

◎共立・山武・コングレ共同事業体 それでは、ただいまより共立・山武・コングレ共同事業

体による提案書のご説明をさせていただきます。よろしくお願いたします。

さて、本日は、このような我々の提案に対してのご説明の機会をいただきましたことを、まずもってお礼申し上げます。ありがとうございました。

今回、我々は、それぞれの分野においてトップクラスの企業であり、多くの実績を持つ3社が集結し、すばらしい共同企業体を組むことができました。この3社の持つノウハウ、実績、経験を本施設に注入することにより、必ずや小金井市民の皆様方にもご満足いただける運営ができるものと確信をしているところでございます。

それでは、時間の関係もございいますので、早速、説明に入りたいと思います。よろしくご審査のほうをお願いいたします。

◎共立・山武・コングレ共同事業体 それでは、具体的な説明を共立のほうからさせていただきます。

まず最初に、適正な管理運営の確保についてです。私ども共立・山武・コングレ共同事業体の目指す小金井市民交流センターの管理運営は、提案書の冒頭にありますように、設置目的を達成するとともに、小金井市基本構想にあります豊かな人間性をはぐくむふれあいのあるまちづくりにつながる運営でございます。

そのために、小金井市の地域文化に貢献する市民ガバナンスの実現、つまり市民の皆様とともに働き、ともに助け合う運営、こちらを提案させていただきました。

館長には、社団法人[ ]の顧問であり、[ ]を予定し、市民館長のもと、市民の皆様にとって誇り高く、かけがえのない施設となることを目指してまいります。

また、施設運営において、透明性と、施設利用者に対する公平性というものは、公の施設の要となっております。

当共同事業体は、全スタッフにサービス介助士の資格取得を推奨するなどし、すべての人に優しいサービスを心がけながら、利用者へのルールへの周知と確実な利用承認の手续、また必要な情報の提供を行うなど、施設運営を透明化して公平性を確保することに務めます。

個人情報の保護、情報公開につきましても、提案書の42ページにございますように、条例に基づく独自の規定を設けるとともに、個人情報の10のポイントや各社のコンプライアンス研修に基づく教育指導を行い、法令順守も徹底してまいります。

続きまして、事業者の現状と実績についてです。

共立・山武・コングレ各社は、全国の文化施設分野において、これまで各種施設の管理運営事業に携わり、そのノウハウを蓄積したばかりでなく、昨今のパブリック美術に積極的な取り組みを行っており、官民連携における実績について最先端企業と自負しております。また、それぞれの施設においては、地域密着の運営を実践して評価されているところです。各社の実績につきましては、提案書の2ページにございますので、ご確認ください。

代表企業の共立は、国内の主要文化施設において160施設以上の実績がございます。また、



文化施設における指定管理者としての実績数も40を超えました。さらに、新八王子市民会館など、これから新たに開館する指定管理館、PFI施設についても獲得しつつある現状です。

文化事業につきましても、昨年行われました日比谷公会堂開設80周年記念事業、こちらへの企画運営協力、こちらをはじめとしまして、ピアニストである辻井伸行さんのコンサートをコンクール優勝前にブッキングしたり、アーティストとして最初のコンサートをこの会館から始めるというような付加価値の高い事業を誘致したり、市民の芸術文化活動への支援制度など、多方面にわたって事業を全国にわたり展開しております。

続きまして、構成企業・株式会社山武の現状と実績についてご説明申し上げます。

◎共立・山武・コングレ共同事業体 維持管理業務を担当する株式会社山武は、指定管理者実績26件のみならず、小金井市総合体育館、また栗山公園健康センターなど、全国約1,000件の維持管理実績を有しております。これら実績同様、本施設におきましても、お客様利用機会損失がなく、事故ゼロの安全管理を提供させていただきます。

また、本施設には、山武製の空調用自動制御機器が納入・設置予定です。この制御機器を最大限活用することで、ホール内の快適空間を創造しつつ、CO<sub>2</sub>削減にも寄与する、そのような維持管理に務めてまいりたいと思います。以上です。

◎共立・山武・コングレ共同事業体 続きまして、構成企業のもう1社、株式会社コングレの現状と実績につきましてご説明申し上げます。

◎共立・山武・コングレ共同事業体 私どもコングレの原点でございますが、国際会議ビジネスでございます。これまでに、サミットやAPECなど国際舞台での多くの実績がございます。また、この会議運営におきましては、世界のVIPをお迎えする超一流の接客マナーとスタッフ運営のノウハウを構築いたしまして、その経験から、現在、全国で約60の国際会議場や文化施設の運営を担当しております。

また、現在、行われております上海万博におきましては、日本館、サウジアラビア館など、5つのパビリオンの運営を行っております。

ホール運営におきましては、滋賀県のびわ湖ホールや熊谷市のさくらめいとなどで、私どもの世界に通用するホスピタリティを実現いたしております。

私どものモットーは、「一流の施設に一流のサービスを」でございます。ここ小金井市民交流センターにおきましても、地域に根ざした生き生きとした施設にしていまいりたいと存じますので、どうぞよろしく願いいたします。

◎共立・山武・コングレ共同事業体 以上が、共同事業体3社の事業者の現状と実績についてでした。

続きまして、芸術・文化公演事業の具体的な業務及びその他の具体的な業務についてです。

小金井市におきましては、公会堂が運営されていた際の実績からも、貸館事業のみで文化事業の実施・発信が可能であるといった文化的地盤がございます。この特性がありながら、芸術・文化公演事業を展開するには、市民みずからの芸術・文化活動、こちらがきっかけや発展につ

ながらよう、すべての世代が楽しめるラインナップとするとともに、それぞれの分野で質の高い芸術鑑賞の機会をつくり、次世代を担う子供たちの人格形成、こちらに役立てるという強い意志のもと実行してまいります。

ラインナップにつきましては、提案書の3ページから21ページ及び35ページから37ページのほうをご覧ください。具体的な内容につきまして、ご説明申し上げます。

◎共立・山武・コングレ共同事業体 事業を考える上で決して外すことのできないポイントは3つあると考えます。

1つ目は、地域に蓄積された文化的資産に敬意を持って接し、協力し合っていくことです。昭和54年、多摩地区で初めての薪能が、こちら小金井薪能としてスタートいたしました。本年で32回目を迎えるそうです。こういった伝統芸能に根づいた小金井市の市民交流センターの開館にふさわしい開館記念式典といたしまして、伝統と格式にのっとり柿落としの定番である「式三番叟」、こちらをもちまして新しい市民施設の幕を開けることに、その思いを込めました。

2つ目は、1番でも2番でもないオンリーワンのすぐれた芸術です。市民のニーズ調査からも、最も多いのが質の高い鑑賞事業を開催してほしいということです。幅広いジャンルの中から開催し、地元ですぐれた鑑賞機会を提供することを目指してまいります。

3つ目が最も重要な部分です。自主事業の随所に使われている小金井市のイメージキャラクター「こきんちゃん」に我々のミッションは象徴されていると考えます。「こきんちゃん」を事業コンセプトのシンボルとすることで、小金井市民の郷土愛を深め、地域の未来に貢献する市民交流センターの役割を強くアピールしてまいります。未来を担う小金井市の子供たちはもちろん、すべての市民の方々が、ここに住んでいてよかったと、そう思えるまちづくりのために、芸術・文化事業の組み立てを行ってまいります。

◎共立・山武・コングレ共同事業体 今、申しあげました事業のほかの具体的な業務について、私どもは、創作・創造事業、こちらに力を入れております。

提案書の24ページをごらんください。ここに2人のキーパーソンを描いております。1人目は、こがねいしてい音楽祭の協力で実績のある、先ほど申しあげました館長予定の■■■■です。もう1人は、■■■■に会社を構える株式会社■■■■です。■■■■は、■■■■をプロデュースするなど、特に若者と言われる世代を対象とするイベント企画に実績がございます。この2人を軸に、市民出演型、それと市民プロデュース型、つまり参加と企画、この双方から創造・創作事業を展開してまいります。

こうした事業を展開することにより、自然に貸館事業も発展していく、相乗効果で発展していくものと考えております。

受付案内業務及びレセプションistにつきましては、先ほど申しあげましたコングレ、このコングレの国際会議の運営経験、このノウハウは、先ほど申しあげました上海万博で現地アテンドの意識改革にも成功しております。このノウハウに基づいて、市民レセプションist

ト、こちらの育成にも務めてまいります。

友の会については、3つのカテゴリーを設定しております。27ページのほうをご覧ください。説明の前にお詫びがございます。サポーター会員の目標会員数は400名です。こちらは、ちょっと記載漏れがございました。申し訳ございませんでした。

友の会の3つのカテゴリーは、いわゆる一般的な友の会の会員のほか、文字どおり運営をサポートするサポーター会員、それからスポンサー的なプレミアム会員、こちらの3つのカテゴリーで運営してまいります。

ホームページ、定期広報事業につきましては、32～33ページに記載のとおりですので、後ほどご確認ください。

続きまして、サービスの向上についてです。私どものサービス向上は、提案書冒頭にあります4者応益の考え方に基づいて、管理運営業務から発生する共益を市民全体の利益とすることにあります。まずは、インターネット予約システムで予約、チケット販売等を効率的にサービス提供いたします。

利用者、来館者に対するサービスにつきましては、提案書の26ページをご覧ください。全スタッフが施設の設備、特性を把握し、おもてなしの心を持って対応させていただきます。

人の資質がよいことというコングレの採用方針もあり、全スタッフが市民の声、要望を吸収するために常にアンテナを張ります。このことにより、来場者や利用者が遭遇するさまざまなトラブルやご意見、こういったものに対して解決を図るための窓口となる、いわゆるヘルプデスク機能というものを、こちらを全スタッフが持ち、結果として市民のニーズを先読みすると、こういった運営を心がけてまいります。

続きまして、効率的な運営です。施設の利用料金及び支出につきましては、提案書の43ページ以降に記載させていただきました。私どもの考える効率的な運営は、バリュー・フォー・マネーの考え方に基づいております。要求水準以上のサービスを、より効率的なコストで提供するという支出設定をしております。ここから、当共同事業体の経験蓄積により、業務や時間をさらに効率化して、効率化することで還元可能となる労力やポストを生み出し、生み出された労力やポストを利用者サービスへと還元する。このことにより、5年間同じ水準のコストで、より質の高いサービス、こちらが提供できるものと思っております。

最後になりますが、安全で安定的な施設運営の継続的提供です。館長につきましては、繰り返し申し上げましたように、                    を予定しております。経歴に関しましては、38ページのほうに記載してございます。

職員の配置は、続いての39ページにありますように、館長、事務局長以下、このような体制となっており、各スタッフが専門分野プラスワンのスキルを目指し、全体としてのパフォーマンスアップを図っております。

また、この施設の維持管理につきましては、山武の遠隔管理システムを導入します。このことにより、24時間365日、安全な維持管理体制及び設備の不具合に対する緊急体制、こち

らが可能となっております、安全面に対しても万全を期しております。

最後に、当共同事業体が願う運営は、小金井市民交流センターが市民の主体的な地域文化を創造する、発信する場となり、自らが誇りを持ち、次世代を担う子供たちを育成するエネルギーとなることです。豊かな人間性をはぐくむふれあいの市民交流センターといたしたいと思っております。以上、ご清聴ありがとうございます。

◎委員長 ありがとうございます。また、私たちのほうからの質疑の中で、順次、お答えをいただきたいと思います。

それでは、これから質疑を行います。初めに私、委員長のほうからお伺いしまして、その後に各委員から質問を行います。

では、最初に応募に当たりまして、今回の3者のほうからの役員予定者の中に市長、副市長、教育長、議員等の本人または配偶者及び第2親等以内の親族がいない旨の誓約書を既に提出していただいておりますけれども、このことに間違いはございませんでしょうか。

◎共立・山武・コングレ共同事業体 はい。

◎委員長 それでは、間違いがないということでありありがとうございます。

それでは、最初に私のほうから2点ほどお伺いいたします。よろしくお答えのほうをお願いいたします。

第1点は、様式18に関してでございます。今のプレゼンの中で何回か強調されました館長関係のことについてなんですけれども、想定されている方に関して2点、ご質問したいと思います。まず、この方に既に就任はご了承いただいているのかという点が1点であります。それから、38ページの勤務体制のところ「非常勤」というふうになっておりまして、必要に応じて勤務ということでございます。これは、39ページの組織の中の人員配置の中で、館長が一番上にありますけれども、実際には月に何日程度勤務する想定をなさっているのか、これが1点目の質問でございます。

第2点は、様式26を拝見しているわけでありまして、収支の総括でございますね。これを見ますと、平成22、23、24、25、26という5年度の収支の予測が立てられていますけれども、平成24年度以降、収支、収入・支出ともに全く変動が見られないということですね。これは、言いかえますと、経営努力がもしかしたら不十分なのではないかということで、一般的に、管理運営にかかわってはPDCAのサイクルを導入なさっているということでありまして、もしこのPDCAということならば、当然、支出を減らしていくことが可能であって、その分を自主事業費のほうに上積みしていくことも出来るのではないかということなんですけれども、この点についての収支の改善努力及び事業の充実・努力目標はどのようにお考えになっているのかということをお伺いしたいと思います。よろしくお伺いいたします。

◎共立・山武・コングレ共同事業体 まず館長予定者について、2点ご質問がございました。

1点目、就任について確約がとれているのかということでございますが、これは確約がとれてございます。

2点目の非常勤についてなんですが、こちらに勤務するのは週2日から3日というのを想定しております。ただ、これはばらつきがございます。といいますのは、■■■■氏は、こちらの経歴にもありますとおり、世界にわたって活躍されている方ですので、そちらの業務もございませす。ただ、そちらの業務をこちらの勤務に反映させていただくというお約束もいただいておりますので、対外的な営業活動も兼ねて勤務しない日は活動するということとさせていただいております。そのために非常勤という、抽象的な言葉になってしまいましたが、そのようにさせていただいております。

続きまして、様式26の収支についてなんですが、24年度から26年度に変化がないということですが、これは1つには、指定管理委託料を2億2,000万という固定した形での要件での提案でしたので、ここに1つ要因があります。通常ですと、この指定管理を下げていく。その下げた分は支出を下げていくという形で私ども構成するんですが、収入をいただいているので、支出も一定にしている。ただ、ここは先ほどおっしゃっていたとおりでして、先ほどのバリュー・フォー・マネーの考え方があります。ここで出た利益を私どもは目指します。ここで出た利益を事業費、支出のほうの自主事業費、こちらに上乘せする形、このことによって、より高度な事業を展開していくという構図を考えております。ただ、指定管理委託料が2億2,000万という固定でしたので、あえてこういう形をとらせていただきました。

◎委員長 ありがとうございます。それでは、一応、冒頭で承ったということで、委員の皆様の方からご質問をお願いいたします。

◎委員 委員の■■■■でございます。2点、お尋ねさせていただこうと思います。

まず1点目は、様式24のほうです。この様式24は、収入・支出の明細が書かれているところですが、ここにおきまして、6点ほど誤謬があります。単位間違いとか、合計間違いとか、そういうようなところでございます。

先ほどからお話をお聞きしておりますと、過去の実績がいろいろあるということによって、この案件に対し、ちょっと注意散漫といいますか、過去の実績に安住して、この案件をやっているかというぐらいの気持ちでこれに臨まれているのではないかなといううがった気持ちがわいてきます。そこのところを、お尋ねしたい。

2点目は、様式19のほうですが、その中で、清掃関係がございません。これは、どこのところで行って、この収支の支出のどこに入ってくるか。それから広報・営業関係は、この組織図のどこでやっているのかという、大雑把に言いますと2点についてお願いしたいということでございます。

◎共立・山武・コングレ共同事業体 株式会社共立でございます。今、委員のご指摘がありましたように、ちょっとこの提案書の中に誤表示といいますか、そういったことがありまして、ここはこの場をお借りしてお詫びをいたします。申し訳ございませんでした。

ただ、我々、ホールに対する思いはこの企業にも負けないつもりでおります。というのは、我々、事実、ホールをもとに技術で培ってきた会社でございますので、そのホールに対する思

い、どんなホールであろうが、これはホールに対する思いほどの企業さんにも負けないという自負もございますので、そういった熱意は、この誤表示とつなぎ合わせるということなく、熱意は感じていただければというふうに思っております。今の誤表示に対しては、本当に申しわけないというふうに思っております。

◎共立・山武・コングレ共同事業体 私のほうからも申し上げます。申し訳ございませんでした。収支につきましては、かなり細分化した分析というものをさせていただいておまして、実は、A3用紙で、ちょっと見づらいぐらいの収支計画というものを立てさせていただいたんですが、提案書の書式がA4のこちらの形に限定されていまして、こちらに写しかえる際にミスをしてしまったということになります。言い訳になりますが、申し訳ございませんした。

◎委員 様式19についてお願いします。

◎共立・山武・コングレ共同事業体 続きます、様式19ですが、こちらは常勤、あるいは常勤ポストについての組織図ですので、こちらはいわゆる運営スタッフの幹部という形で記載させております。ここに、通常は、委託でありますホール技術者、こちら職員を配置させていただいておりますので、こちらのスタッフは事務所に常にいるという形になります。おっしゃられた清掃ですとか、あるいは警備ですとか、レセプションというのは非常勤であったり、業務委託というくくりになりますので、こちらの組織図からは外させていただいたという形になります。同じように、広報につきましても、自主事業担当者が主に担当することになりますが、そのほかに、共立、コングレ、各社の本社支援、本社のほうでも一緒に広報宣伝活動していくという形になっております。予算につきましては、維持管理費の中に清掃業務ですとか、警備要員とかは入っております。そういったことでご理解いただければと思います。

◎委員長 はい、どうぞ。

◎委員 ■ですが、この提案書というところの39ページにありますスタッフを見ますと、実質的にほとんど共立さんが中心であるということで、館長は、はっきり言うと有名無実であり見えない。事務局長1名と、あと事業関係では自主事業責任者、担当者などなどで、実質的には、いわゆる管理運営については2名、4名、5名で当たるのではないかと思うのですね。そこら辺のスタッフの責任能力はいかなものか、よく伺いたいと思うのですね。実績のある事業会社であることはよくわかるのですが、しっかりした信頼関係が持てる企業なのかどうか、よく伺いたい。

◎共立・山武・コングレ共同事業体 お答えさせていただきます。まず、共立が大半を占めるというご意見ですが、施設の特性上、ホール並びに集会室等の運営が、こちらの市民交流センターのメインになると思います。こちらにつきましては、私ども共立、これまで実績がございますので、その実績のある者をこちらに配置させてという考えですので、共立のスタッフが多大になっております。そこに、ここで維持管理者、常勤者1名という形になりますが、設備維持管理は、先ほど申しましたように遠隔管理、非常時にはいつでもこちらに来るという体制が山武にはございます。山武は、小金井市周辺施設についても納品業者でありますので、こちら

の施設についてはエキスパートということで、常勤者は1名で足りるというふうに考えております。国際的な経験を持ちますコングレ、こちらがお客様にとってはメインとなります。こちらの部分は、コングレが特化して行うという形ですので、数は少ないんですが、お客さんに対するメインはコングレという構図になっております。責任能力につきましては、続いての40ページ、こちらのほうに明細を記載しているので、そちらでご確認いただければと思います。

◎委員長 はい、ありがとうございます。

◎専門委員 ■■■■です。今の質問とも関連で、同じようなのですけれども、質問の趣旨は、共立さんが主になっていることではなくて、ただ、拝見しますと、自主事業の案につきましても、具体性がほとんど見えない、わからないです、全く。「こきんちゃん」は結構なのですが、特に他の応募者に比べると明らかに内容がないのですが、■■■■さんを起用するのはよろしいのですが、■■■■さんは非常勤ですけれども、どなたが中心になって事業を推進していくのか、それがよくわからない。経験がおありでしょうから、ホールを舞台管理することは心配しておりません。それから、コングレさんも、応接、レセプションの心配もしておりません。ビル管理の山武さんも心配しておりません。だれが自主的な興行を責任持って運営していくのかという質問です。

◎共立・山武・コングレ共同事業体 では、組織について申し上げます。私ども共立が代表となる指定管理館は、館長ですとか、事務局長という肩書きを持つ人、こちらは主に決裁をするというスタンスをとっております。ですから、小金井市の市民交流センターにおきましても、館長、事務局長は、あまり積極的に動かず決済をするというスタンスでおります。実質は、責任者というのは、下記にあります責任者、貸し出し受付案内責任者、自主事業責任者、ホール技術管理責任者、この者が積極的に動いて、現場をまとめて、でき上がったものを決裁さすというようなスタンスですので、事業に関しましては、ここにあります自主事業の責任者というものが事業を組み立てていくと。それで、責任を取っていくという構図です。これは、ほかの指定管理館でも同じ構図があると言えます。

◎共立・山武・コングレ共同事業体 追加ですが、24ページに、■■■■さんという方を、現状では自主事業責任者という形で予定はしております。ただ、採用の部分がありますので、予定という形にさせていただきたい。その方は、書いてあるように、市民の企画をプロデュースするということを得意とする方でございますので、この方を、今の予定では、自主事業責任者として、私どものほうで登用した中でやっていただこうかなというふうに考えているところでございます。

それと、指定管理者の場合、大きく2つの部分があるかと思いますが、1つは、こういう文化事業の助成、これは重要な部分でございます。もう1つは、経営の安定性というのがかなり必要になってくると思いますので、今、この組織表に書いてあります、館長以下の、まず責任者におきましては、これはそういった管理能力のある人材を現状、予定をしているところでございます。ですから、ご質問にあるような、だれが事業を全体として動かしていくのかという

ことになりますと、文化事業責任者が、予定者だというご理解をいただきたいと思います。

◎専門委員 まだ決定していないので、この関心表明書の添付という意味ですね。

◎共立・山武・コングレ共同事業体 そういうことでございます。

◎委員長 ほかにご質問。はい、どうぞ。

◎委員 ■■■です。館長の件、収支の件、それから、先ほどの企画営業をだれがやるという、その点については先ほど出ましたんで省略しまして、1点だけ、様式12-2に書いてあります警備業務というのがあります。ここで、昼間は、ただ定期的に巡回だけで、機械警備がほとんどない、夜間はあるようですけども、駅前なのでいろいろ出入りが激しいと思うんですけど、そういった不審者なども、あるいはいるかもしれないですね。その辺を単なる巡回だけで守れるのかなど。ちょっとその辺が不安なので、その辺をどうされるかお聞きしたい。

◎共立・山武・コングレ共同事業体 山武のほうから答えさせていただきます。確かに駅前で人通りが多い施設だと承知しております。なので、巡回経路をきっちり決めて、「定期的に」と書いてあるのですけれども、数多く見回りさせていただくことで、不審者がいたら、すぐ一報を、対応する、そのような形で、とにかく巡回の回数をほかの施設よりは多くする、そういったような形で対応させていただければと考えております。以上になります。

◎共立・山武・コングレ共同事業体 補足説明させていただきます。私どもが承っている指定管理館で、こういった部分に人を常時置かないところがあります。じゃあ、置かないのならどうするのかというと、これは、先ほどの組織図のところでも申し上げましたけれども、各職員が、専門分野プラス1というスキルを身につけさせますので、例えば、貸館担当者であったり、舞台技術担当者であっても、業務的に余裕があるのであれば、巡回を積極的に行っていくというような形で山武の警備をカバーしていくという組織体制を取っております。

◎委員長 わかりました。ほかにございませんようでしたら終了したいと思いますけど、よろしゅうございますか。

最後に1点だけ、市民ガバナンスというご説明が冒頭にありましたけれども、文化をつくるということと市民ガバナンスというのはどういう関係になるのでしょうか。ガバナンスというのは、普通、政治とか、経済とか、そういう言葉です、今は文化のものをつくるということですか。

◎共立・山武・コングレ共同事業体 そうですね。私ども、根本的な考え方としては、基本的に地域の施設は地域の人たちが管理・運営を含めて統治するべきだという、大きな目的がございます。それをサポートする。それから、そこに全国の水準というか、全国にあるネットワーク、それから、全国にある平均的なものをそこへ注入するために、我々あるんだというふうな思いのもとで、共立は全国の施設に対してご協力をさせていただいておりますので、これが10年かかるか、20年かかるかわかりませんが、本来、小金井市の市民の方がこのホールを運営できるようなお手伝いができるということが、我々の大きな目標でございます。

◎委員長 大変ありがとうございました。それでは、ちょうど時間になりましたので、以上で



共立・山武・コングレ共同事業体さんについての第2次審査を終了いたします。ありがとうございました。

◎共立・山武・コングレ共同事業体 きょうはどうもありがとうございました。

◎委員長 なお、審査結果につきましては、後日、担当課のほうより文書にて通知することになります。本日は大変ありがとうございました。

それでは、しばらく休憩いたします。

(「共立・山武・コングレ共同事業体」退室・休憩)

(休憩終了・「小金井アートウインド運営企業体」入室)

◎委員長 それでは、委員会を再開いたします。

こんにちは。本日は、お忙しいところ、小金井市指定管理者選定委員会にご出席をいただきましてありがとうございます。

ただいまから小金井アートウインド運営企業体さんについての第2次審査を始めます。

初めに、提出していただいております申請書等に基づきまして、15分程度と、時間が短く恐縮ではございますけれども、簡潔に説明をお願いいたします。その後に、各委員からの質疑応答を20分程度行います。

ここで、冒頭、委員長の私のほうから、一言申し上げます。

委員会における発言内容につきましては、議事録といたしまして全文記録により作成し、公開されますので、この点、どうぞご了承おきくださいますようお願いいたします。

それでは、説明をよろしくをお願いいたします。

◎小金井アートウインド運営企業体 本日は、小金井市民交流センターの第2次のプレゼンテーションをする機会をいただきまして、ありがとうございます。

それでは、早速説明のほうをさせていただきたいと思えます。

評価項目との都合上、ちょっとページが行ったり来たりしてしまふことがありますので、その辺はちょっとご了承いただければと思います。

まず、適正な管理・運営の確保ということで、様式1のほうをご確認いただけますでしょうか。私どものミッションとして考えておりますのが、市民が主体的に文化を担う、本当の意味での市民参加、それと、小金井からの発信を目指していくところを目指して運営をしていきます。あくまでも主役は市民というふうに考えております。

ミッション実現に向けた特徴として、人材、そして文化力、これを小金井の地域資源と位置付けて、市民とともに育つ施設を目指していきます。

具体的には、1つ目として、市民の主体的な活動を私どもがサポートしていくと。そしてレベルアップを図って、そして、文化・芸術に触れる喜びをより高いものにしていく。そんな活動を目指していきます。

2点目といたしまして、市内在住のプロや文化団体の方、そういった方々と共同して、小金井オリジナルの文化を創造し、市内外へ広く発信していきます。

また、公共施設、こちらを運営していく上で、施設単体、これを適切に運営していくというのはもちろんですが、私ども、常に地域にとってその施設がどうあるべきなのかなど、まちづくりの視点を考えながら施設を現状でも運営しております。今回も、そういった視点は失わずに、にぎわいの創出でありますとか、コミュニティの形成、そういったまちづくりの視点を持って、地域とともに育つ施設にしていきたいというふうに考えております。

続いて、事業者の現状の実績ということで、様式2のほうをご覧くださいませでしょうか。まず、代表企業のFun Space、こちらは、公の施設運営と自治体コンサルティングの専門企業です。現在、全国で17施設、こちらの指定管理者として運営をしております。その17施設の利用者数が、今、大体250万人程度というふうになっております。また、我々のほうでまちづくり計画でありますとか、総合計画、そういった自治体コンサルティング計画も実施しております。そういった視点は施設運営に十分に活かされるのかなというふうには思っております。

あと、指定管理者の実績として、文化ホールでは、千葉市の美浜文化ホール、旧広島厚生年金会館の、現在、広島市文化交流会館、あと彦根市文化プラザ、こちらのほうを指定管理者として実施しております。

次に、パシフィックアートセンターですが、こちらは、舞台技術、設備、運営のプロフェッショナルです。舞台技術の業務委託は、今、約40施設程度実施しております。歌舞伎などの伝統芸能に携わっております。現在、改装中ですが、歌舞伎座ですとか、国立劇場で舞台技術業務を実施しております。

指定管理者の実績としては、美浜文化ホール、渋谷公会堂、C.C.Lemonホール、あと日本橋公会堂、こちらのほうを実施しております。

続きまして、ハンズオン・エンタテインメントですが、こちらのほうは、エンターテインメント総合プロデューサーです。クラシックからポップミュージシャンまで幅広いネットワークを有しております。そういった意味でも、ソフトの供給は十分に可能かなというふうに思います。現在、平成22年度は、40本のパッケージを公のホールに提供していたり、あとコンサートツアーとか学園祭、会館自主事業ですね、そういったもので、年間700本ぐらいを展開しております。動員人数が500万人を超える規模となっております。

当企業体の特徴を申しますと、千葉市の美浜文化ホールなのでありますが、こちらのほうが、今回と同様、新築物件で指定管理として開始いたしました。そういった意味でも、私ども、新築案件での立ち上げの実績があるので、今回もスムーズな開館が可能かなというふうに考えております。

続きまして、芸術・文化公演事業の具体的な業務、及びその他の具体的な業務ということで、様式1のほうに戻っていただけますでしょうか。

私どもは、事業の柱ということで、次の3つを柱と考えております。1点目が、文化・芸術の創造・発信。そして2点目が、市民文化活動支援、地域の才能の発掘と育成。3番目がにぎ

わいとコミュニティの形成という、3つを事業の柱として実施していきます。文化・芸術の創造・発信で申し上げますと、市内の著名アーティストを外に向けて発信する「マンスリー・クラシック」でありますとか、「なるほど! Theライブ」、そういったもので、地域の人材と共働してのオリジナル公演制作、オリジナル公演づくりを実施していきます。

続いて、市民文化活動支援、地域の才能の発掘・育成というところでは、小金井市芸術文化新人賞でありますとか、市民プロデューサー育成講座、お助けコンシェルジュ等々の事業を実施していきたい。

3つ目といたしまして、にぎわいとコミュニティの形成というところでは、出前コンサートであったり、アウトリーチ事業、そういったものを展開していきます。

続きまして、様式7をご確認いただけますでしょうか。こちら、貸館の開始のスケジュールですけれども、当企業体では、4月11日の貸館の開始を考えております。したがって、4月1日に会館記念式典と柿落とし、続いて、4月2日からオープニングイベント、これを実施していきたいというふうに考えております。小金井市は桜が有名ということなので、桜の季節に合わせてオープニングイベントを実施できることがいいかなというふうに思っていて、スケジュール的にも、今のスケジュールであれば十分可能というふうに考えています。

続きまして、サービスの向上というところで2つお話をさせていただければと思います。様式8のほうをご覧くださいでしょうか。そちらのほうにございますお助けコンシェルジュ、こちらのほうを設置いたします。お助けコンシェルジュなのですが、初めてのホールを利用する市民の皆様の目線に立って、市民自らが企画・運営し、催事を実現させるための支援サービスととらえております。市民の皆さんが描くイメージを実現するために、ハード面からソフト面、こちらのすべての悩みをバックアップしていくというふうなことを実施していきます。

具体的内容なのですが、お助けコンシェルジュは縦軸と横軸で考えております。縦軸のほうは、利用者カルテなどを作成して、申し込み、準備、実施、今後のアドバイスといったような形で、一貫して利用者をフォローしていく。単に利用案内するだけではなく、最後のアフターフォローということで、担当者が公演を見て、その方々にアドバイスをしていくといった感じで、人材育成にも力を注いでいくというふうに考えております。一方、その横軸のところでは、分野別に専門家がサポートしていく。クラシックであるとか、舞台技術、演劇、絵画、そういった感じで、各分野の専門家がアドバイザーとしてアドバイスいたします。そういうスタイルをとっていくことによって、より地域の才能の発掘や育成につなげていけるかなというふうに思っております。

続いて、きつずサポートプロジェクト、様式5のほうになります。5の一番上になるのですけれども、今、我々のほうできつずサポートプロジェクトというものを立ち上げて、ふだん、一流の芸術に触れることができない子供たち、この子供たちが本施設で芸術を鑑賞できる機会をつくるプログラムを実施いたします。利用者や地域の方々から寄附を募って、集まった寄附でチケットを購入して、子供たちに見ていただくと。そういった活動をするによって、文

化・芸術に触れる喜びを感じてもらって、未来のアーティストたちの芸術の芽を育てていきたいというふうに思っております。

続いて、効率的な運営ということで、3点ほどお話をさせていただきます。

まず、私どもではオペレーションという部分で、一部の専門業務を除いて、すべての職員が部門を超えてフォローできるような、そういった体制、いわゆるマルチタスク方式というものを採用して、利用者の利便向上と業務の効率化を図っていきます。マルチタスク方式と申すのは、一人多役、いろいろな役をこなすということで、利便性と業務の効率化を図ることです。例えば、企画スタッフなどであっても、窓口が足りないときには対応したりとか、総務の人間であっても、企画の人間が足りないときはそちらで対応する、そういったことをやっていくことによって、組織の壁のない、三社一体となった運営を目指していきます。

続いて、割引制度なのですがすけれども、利用者にとって使いやすく、稼働率の上昇につながる各種割引制度を実施していきたいというふうに思っています。割引制度であったりとか、割引率、こちらは後に市とご相談にはなると思うのですがすけれども、様式23のほうでちょっと書かせていただいているのですがすけれども、こちらのほうで例示した割引制度以外であっても、市の方であるとか、市民の方々の要望によって弾力的に実施していきたいというふうに思います。

あと、もう1つ、我々のほうの修繕積立というものを考えておまして、効率的な運営をして収益の向上を図った結果、収益差額が黒字となった場合には、その一定額を自主修繕費として積み立てるということを考えております。この修繕費に充当することによって、施設の継続、資産価値の維持に資するというふうに考えております。新築なので、そんなに発生しないよということもあるかもしれないのですがすけれども、そういった場合には、市の方々とご相談して、例えばまちづくりを使うとか、そういった形で使っていくことも考えていこうかなというふうに思います。

続きまして、安全で安定的な施設運営の継続的提供ということで、様式19のほうをご覧くださいただけですでしょうか。館長候補なのですがすけれども、私どものほうでは■■■■の元社長であって、社団法人■■■■の会長の■■■■さんを考えております。あと、アドバイザーとしては、音楽アドバイザー、演劇アドバイザー、ギャラリーアドバイザーということで、音楽アドバイザーに■■■■さん、演劇アドバイザーに、■■■■副会長の■■■■さん、ギャラリーアドバイザーには、病院でのワークショップで活躍する■■■■さん、これらの方々をアドバイザーにお迎えして事業へのアドバイスをいただくとともに、地域の才能の発掘・育成に努めていきます。

様式20のほうをご覧くださいただけですでしょうか。最後に職員の件ですがすけれども、労基法等法令遵守、そちらのほうは当然のことですがすけれども、当企業体では正社員を中心に配置しております。正社員を配置することによって、技術の継承を図り最高のパフォーマンスを提供できるというふうに思っております。

すみません、ちょっと早口になってしまいましたけれども、以上で私どもの、これらの内容

をもとに、本当の意味での市民参加と小金井からの発信を目指していきます。補足説明は以上になります。

◎委員長 大変ありがとうございました。それでは、また、質疑の中で順次お答えいただきたいと思います。

それでは、これから質疑を行っていきたいと思いますけれども、初めに私のほうからまずお伺いしまして、その後に各委員から質問を行ってまいります。

最初にお尋ねいたします。今回、応募に当たりまして、役員の中に、市長、副市長、教育長、議員等の本人または配偶者及び第2親等以外の親族がいない旨の誓約書をご提出いただいておりますけれども、このことに間違いはございませんでしょうか。

◎小金井アートウインド運営企業体 代表企業として、一切ございません。

◎委員長 ありがとうございます。それでは、私のほうから、3点手短かに伺います。

第1点目は、3者の、このFun Spaceさん、パシフィックアートセンターさん、ハンズオン・エンタテインメントさんですね、様式19に既に書かれて、ご説明があったんですけども、この3者の仕事といいますか、どの程度のパーセンテージが今回、この運営事業体として、それぞれに、端的に何%ずつということになるということをお尋ねしたいと思います。

2点目は、実績としまして、Fun Spaceさんのほうの美浜の例が挙がっております。これは新規のホールということですが、運営状況はどうなのかということをお尋ねしたいと思います。様式2のところに書かれているところですね。

それから、最後は様式26の収支のところですが、これを拝見しますと、平成23年度以降、黒字ということで黒になっておりますね。2,000万以上の黒字を見込んでおりますけれども、支出のところを拝見しますと、自主事業費の増額が、定額ということで増えていていない。このあたりのお考えはどういうことになっているのか。公の施設を運営していくということになりますと、この黒字の分を市民のほうに還元するということは考えておられるのか、おられないのかということをお尋ねしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

◎小金井アートウインド運営企業体 1番目の3社の割合というふうな形は、大きく、今回は、舞台設備とかはパシフィックアートセンター、それで人数等のことも様式19に入っております。それから、企画制作、自主事業に関してはハンズさん。受付、それから警備とか、事務とか、一切を代表企業になるFun Spaceという形で、全体の比率は出しておりませんが、人件費配分でしておりますが、ちょっと計算では、全体の比率が何対何というのは出しておりません。

◎委員長 そうですか。

関連いたしまして、先ほどのご説明ですと、効率的な運営ということで、社員を張りつけということではなくて、マルチ活動云々ということでしたが、これは実際に、張りつけて働いている方ですか。

◎小金井アートウインド運営企業体 千葉市の美浜文化ホールとか、この3社でやっておりま

して、忙しいときはお互いが助け合うというふうな形で対応しております。

それから、美浜文化ホールのことと、自主事業については、[ ]の芸術監督をやっております[ ]のほうから説明させていただきます。

◎小金井アートウインド運営企業体 その前に、ちょっとマルチタスクの話をさせてもらいます。これは、人が足りないからやるという発想じゃなくて、すべてのホール全体のミーティングがあって、すべての自主事業の企画も、それからホールの舞台技術のことも、それから受付のことも、全部全員で共有しています。それで、助け合うということよりも、実は、ピーク時には、当然人材は要るわけですね。もし、縦割りにしていくと、人材はうんと必要ですよ。それに合わせなきゃいけないくて、我々は、最低の人数の中で最大の効果を出すということです。

それから、先ほどの様式26でしたっけ、これをご覧になってください。確かに23年度は6,100万になっていますよね。この数字は、柿落としとか、初期にかかりますので、その予算でございます。それ以外はずっと同じですね、4,000万ぐらいの自主事業費であります。ですから、それで利益を出していくということではないです。

◎委員長 しかし、黒になっていますよね、収支のA-Bで。

◎小金井アートウインド運営企業体 ですから、先ほど申し上げました、この中でこの修繕積立金及び小金井市のまちづくりのほうに還元したいというふうな形の説明だったと思うんです。

◎委員長 わかりました。

◎専門委員 ちょっと私のほうから、[ ]でございます。

一番最初の運営の中で、「本当の意味での市民参加」というふうにならないうたっていらっしゃいますけれども、「市民参加」という言葉自体がもう今や古くなってきていて、違った言葉があると思うのです。今の市民参加、「本当の意味での」というのはどういうことなのかを伺いたいのと、小金井オリジナルの文化をつくって発信していこうと。「小金井オリジナル」というのはどういうことを指してらっしゃるのか。

もう1点、そのためにオリジナル公演を実施して、ワークショップ等、市民ミュージカルをつくっていこうよということでご提案があるんですが、これをどのくらいの頻度で実施される予定なのか。この辺、3点、申し訳ありません、お尋ねします。

◎小金井アートウインド運営企業体 ハンズオン・エンタテインメントです。まず、本当のところの話ですよ、1点は。結局、よくパッケージを買ってきて、単純に簡単なワークショップをして、それで仕上げてしまうということじゃなくて、やはりこれはコンシェルジュとも関係ありますし、市民の方々のワークショップ、もう1つは「なるほど!Theライブ」がありますけれども、「なるほど!Theライブ」は、例えば歌舞伎であつたら、まず歌舞伎の勉強をして、なおかつ実験して、そして感動するというのが、「なるほど!Theライブ」です。「なるほど!Theライブ」には、当然、市民の人も勉強していただいて、感動していただいて、その流れも、そのままワークショップ、そして、例えば出演者の歌舞伎俳優の方々とか何カ月も練習しながら、そして感動の場をつくるというふうに、時間と、それから座学も含めてつくり上げるという意

味です。単純に、買い興行に地域の方、市民の方を入れるということではないという意味です。

それから、2番目、オリジナルですけれども、これに関しては、全部パッケージではなくて手づくりを増やしていきたいと思っています。それは、これから市民の方々、あるいは、地域の劇団の方々がたくさんいらっしゃると思うのですよ。そこのノウハウを結集してものをつくっていくと。ゼロからつくっていくという発想でいきたいと思います。

それから、3番目は、ワークショップ等をやりながら市民劇団構築とありますね。私どものハンズオン・エンタテインメントは、コンサート、音楽で言いますと、新人のバンドをオーディションしながら、そしてライブハウスで育て上げながらビッグアーティストに持っていくという、発掘、育成、そして晴れの舞台というふうにしています。その市民劇団版を、2年、3年かけてつくり上げていくということです。以上です。

◎委員長 ありがとうございます。皆さんから何かご質問は。

◎委員 ■■■■です。館長の件ですが、館長というのは、いわゆる文化事業とか企業経験者ということなんで、非常に心強いんですけども、「非常勤」と書いてあったんですね。実際に運営していくと、いろいろなイベントをやるの問題も出てくると思うので、その辺で館長というのは非常に忙しいんじゃないかな、それが非常勤で大丈夫なのかなというふうにちょっと心配なのですが。

◎小金井アートウインド運営企業体 まず、後で副館長の話もいたしますけれども、■■■さんに関しては、非常勤ですが、先ほども言いましたように、■■■■の会長という、やっぱりそのエネルギーをちゃんと生かすということを含めて、名目だけじゃなくて、実質的に館長としての役割を果たしてもらいます。具体的には、事業企画にもかかわり、経営、地域、行政、市民との調整。これを果たすために、必要に応じて、館長として出席すべき場とか会議はすべて出席させていただきたいというふうに思っています。

◎小金井アートウインド運営企業体 それで、■■■館長が非常勤というような形で抜けるときがありますが、副館長として公立の美術館で2つほど、小ホール及び大ホールの経験者、今現在も館長をしている者を想定しております。

◎専門委員 最後の意味がよく。

◎小金井アートウインド運営企業体 副館長としてサポートする実質の音楽ホールがわかって、かつ行政の対応もできる副館長をサブとしてつけております。

◎専門委員 その方は、常勤ですか。

◎小金井アートウインド運営企業体 常勤です。

◎委員長 それは、様式上のどこかに、今、お答えの方の記載があるのか、ちょっと教えていただけますか。■■■さんは拝見していますけれども。

◎小金井アートウインド運営企業体 様式20の副館長というところです。

◎委員長 様式20ですか。

◎小金井アートウインド運営企業体 はい。

◎委員長 副館長さん。この方は、お名前はまだ具体には挙がっていない。ご予約の方はいらっしゃるのですか。

◎小金井アートウインド運営企業体 具体的に名前が挙がっておりまして、私どもの職員で、以前に■■■■の館長をしており、今現在、■■■■の館長をやっております。

◎委員 委員の■■■■です。やっぱりこの事業担当としては、企業としての意欲ですね、あとは事業能力が問題になると思いますが、そこら辺は十分期待させていただきたいと思います。

次に、一般的な話ですけれども、例えば、テレビで漫才とか落語の番組がありますね、ああいうものをぜひ呼んでほしいという気もするんですが。それから、民間放送で、名前を忘れましたけれども、骨董品を鑑定したりする何かありますよね。ああいうものを是非、招致するような努力もお願いしたい。世の中の流れはそういう気がしました。

◎小金井アートウインド運営企業体 今回は、提案書ということで、私どもの企画力であったりとか、事業ボリュームをぜひ皆さんにご覧いただきたいということで、こういったものをつくり込んでおりますけれども、一部、ボックスであったり、もしくは大人の方向けということで、一部パッケージ公演の買い取りも検討したものを提案書に一応書かせていただいております。そういったものの中に、そういった買い取り公演であったり、テレビ関係であったりというものは、盛り込んでいきたいというふうに考えております。

◎委員長 はい、どうぞ。

◎専門委員 ■■■■さんのお力というのはよくわかっておりまして、それから、ハンズオンさんの今までやられたこと、今提案されている例も、23年のイベントの事業の予定といいますか想定は、かなりハンズオンさんのような形のもの相当提案されており、それは悪いと言っていないですよ。そのことと、先ほど副館長とあわせるのですが、■■■■さんのやってこられた系統と、■■■■さんなどが中心になってやってこられたこと、相当違う部分があって、ちゃんとうまくバランスがとれるか大変心配で、その辺の話は、どうなっているのか、ちょっと突っ込んでお伺いしたいんですが。

◎小金井アートウインド運営企業体 実は、私は、■■■■さんとは一緒に仕事したり、その関係でコクーンでやっぱり■■■■さんとかかわり合いも、多少、1回ぐらい仕事をしたこともあるし、そういう関係で、■■■■さんの考えている方向性とか、マネジメント力というのは、十分勉強させていただいてというふうに思っています。ただし、ジャンルが我々はJ-POPとか、ニューミュージック、ロックのほうですね。■■■■さんは、演劇とか、ミュージカルとか、それからクラシックとか、これとこれが僕は融合するときにおもしろい化合物ができるというふうに、自信があります。

◎専門委員 皆さんが、全部、常勤なさっているなら心配しないです。そうじゃなくて、副館長さんが中心になると、非常に個人的になって、ちょっと不安というか、そういうふうに感じたもので。



◎小金井アートウインド運営企業体 やっぱり企画制作事業に関しては、その場の常勤で市民の方からエネルギーをいただくということも、当然、大事ですけれども、全く別次元で、やっぱりブッキングするのは、小金井だけです訳じゃないですけれども、関東全域で、プロダクションとかがいますんで、そことの連合もあるので、常勤にこしたことはないですが、その辺をちょっと補っていきたいと思っています。

◎専門委員 ■■■ですが。すみません、「マンスリー・クラシック」というおもしろい企画が入っていますが、この辺はどのくらいまで精度が上がっている企画書でしょうか。お名前として、この全予算を入れても来てくれないであろうという名前の方が出ているし、さまざまなお名前がきらびやかに散らばっていますが、これは現実的なんでしょうか。

◎小金井アートウインド運営企業体 実は、ジャパン・アーツさんの名前が出ておりますけれども、アーティストはほとんどジャパン・アーツさん。これは、ジャパン・アーツさんの料金表も全部もらった上での話です。

◎専門委員 ただ、そうすると、■■■さんが70万で来るというふうに書いていますね。

◎小金井アートウインド運営企業体 すべてが単発という訳ではなくて、ある程度。全部を丸投げする訳ではなくて、ジャパン・アーツさんに、例えば、年間のうちの、この「マンスリー・クラシック」を何本か、ほかの方、もしくは私ども独自のオリジナルのブッキングなどで、ある程度のパッケージで出すことによって、料金バランスがとれるかなというふうに考えております。

◎小金井アートウインド運営企業体 あと、ワンマンショーをやってもらった訳ではないので、やっぱり企画で、こちらから指定した曲を主に歌ってもらおうということなので、ジャパン・アーツさんの言う売りでそのままそっくりということじゃなくて、多少勉強していただくということを考えています。

◎専門委員 キャパシティが小さいホールですから、普通の制作ルートでは出来ない。ただ、この企画書の中では出演者として、きら星のごとく並んでいて、このような提案はいかがかなというのが正直なところです。それで、オーケストラの演奏会もこの中に入っていますよね。こういったものも、例えば100万円でオーケストラが来る訳はないので、「マンスリー・クラシック」の企画自体はおもしろいなと思うのですが、これは数字的に実現可能なのか、今回の提案に館長予定者の■■■さんのノウハウが入ってこないといけないというふうに、私はそう読ませていただきました。

◎小金井アートウインド運営企業体 そのとおりです。

◎委員長 委員の皆さん、よろしいでしょうか。それでは以上で終了させていただきます。大変ありがとうございました。

◎小金井アートウインド運営企業体 ありがとうございました。

◎委員長 最後になりますけれども、小金井アートウインド運営企業体さんにつきましたの第2次審査はこれで終了でございます。

審査結果につきましては、後日、担当課より文書にて通知することになります。本日は、大変ありがとうございました。

◎小金井アートウインド運営企業体 どうもありがとうございました。

◎委員長 それでは、しばらく休憩いたします。

(「小金井アートウインド運営企業体」退室・休憩)

◎委員長 それでは、再開させていただきます。そろそろまとめに入りたいと思いますけれども、評点のほうはこれでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

◎委員長 それでは、確認させていただきたいと思います。事務局のほうからご報告をいただけますか。

◎事務局 小金井市民交流センター指定管理者候補者選定の第2時審査における委員7人の方々の評点の合計点及び候補者としての選定順位につきましてご報告いたします。

「こがねいしてい共同事業体」625点、「XXXXXXXXXX」525点、「XXXXXXXXXX」513点。

以上の結果により、第1位は「こがねいしてい共同事業体」、第2位は「XXXXXXXXXX」、第3位は「XXXXXXXXXX」となりました。以上です。

◎委員長 ありがとうございました。

今、事務局からご報告がありましたように、第1位は「こがねいしてい共同事業体」、第2位は「XXXXXXXXXX」、第3位は「XXXXXXXXXX」という結果になりました。順位付けに当たりまして、その主な理由について皆さんに協議をいただいて、あるいは要望もあればお願いしたいということで、休憩させていただき、最終的にまとめたいと思います。しばらく休憩に入ります。

( 休 憩 )

◎委員長 再開させていただきます。

それでは、選定するに当たっての理由として、とりまとめた試案について、お諮りしたいと思います。

第1位となった「こがねいしてい共同事業体」については、1点目として、小金井市の地域特性である市民協働を生かした具体性のある提案内容となっており、小金井市の活性化にまで踏み込んだ興味深い内容となっていたこと。2点目として、市民参加や市民の自主性を育む運営方針が指定管理業務の実績に基づいて提案されており、説得力があったこと。3点目として、ホール特性を生かした自主事業企画が優れていること。

これらのことが、他の団体に比べ評価を受け第1順位となった。

第2位となった「XXXXXXXXXX」については、1点目として、指定管理業務の実績は評価できるが、収支内容に計画性が見られなかったこと。2点目として、指定管理委託料が一定額である中で、収支の内訳において中期的な改善プランを展望した提案になっ

ていないのが残念であったこと。3点目として、ホールの自主事業企画の数は豊富だが、積極的な具体性のある提案が見られなかったこと。

第3位の「XXXXXXXXXX」については、新設ホールの立ち上げなどの指定管理業務の実績もあり、自主事業企画の演目も興味深いが、施設の特徴や性格を生かした内容が感じられず、実現性に関する具体性が弱かったこと。

したがって、第2位、第3位については、これらの理由から第1位に及ばなかった。

また、第1位の団体については、当委員会からの要望事項として、1点目、自主事業は、多くの市民に享受される多種多様な事業を行うこと。2点目、市民参加の事業企画をより強化し、小金井市民交流センターが市民活動やまちづくりを支える拠点づくりとなることに資すること。最後に3点目として、舞台技術者は、施設利用者に親切丁寧に対応できる熟練したスタッフとすること。これらの3点を付記したうえで、このようなかたちで、まとめさせていただき、報告することとしたいと思いますが、皆さんよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

◎委員長 それでは、ご異議なしということで認め、今、申し上げましたとおり決定させていただきます。

以上で、本日の議事はすべて終了いたしました。これをもって閉会といたします。長時間、大変お疲れ様でした。

(17時30分閉会)